

百花繚乱

染付便器の粹。



トイレに見る やきもの文化

～染付便器の民俗誌～

平成28年7月23日(土)→8月28日(日)

開館時間：9時30分～17時(入館は16時30分まで)

休館日：毎週月曜日 8月12日(金)

観覧料：一般450円(360円)、高大生350円(280円)、ペア800円
小中学生、身障者手帳受給者は無料 ()内は20名以上の団体

主催 後援 協力
江別市 北海道教育委員会 朝日新聞北海道支社 北海道新聞社
読売新聞北海道支社 毎日新聞北海道支社
力/伊藤幸生 小平町教育委員会 旧檜山爾志郡役所(江差町郷土資料館)
斜里町立知床博物館 瀬戸市 瀬戸蔵ミュージアム 中標津町郷土館
羽幌町立中央公民館 北海道立総合博物館 本別町歴史民俗資料館
室蘭市民俗資料館 INAXライブミュージアム(PART OF LIXIL)

江別市セラミックアートセンター

〒069-0032 北海道江別市西野幌 114 番地 5
TEL 011-385-1004 FAX 011-385-1000

<http://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/ceramic/>

<https://www.facebook.com/ebetsucityceramic/>

トイレに見る

やきものの文化

〜 染付便器の民俗誌 〜

古便器とは、衛生陶器が生産流通する以前に、非水洗式トイレ用に作られた陶磁器製の便器の総称です。

陶磁器製の便器は明治時代中期以降、瀬戸地方で盛んに生産されるようになり、特に明治 24 年（1891）の濃尾地震以後は、復旧家屋に陶器製の便器を設置する人たちが増え、東海地方を中心に普及していきます。

こうした陶器製の便器は吸水性が高いなどの問題がありましたが、染付技法による高い装飾性が好まれ、広く普及していくこととなりました。

また、磁器製便器の生産は明治 20 年代後半から軌道に乗ったとされ、陶器製同様に、染付技法による花鳥画や山水画などが施されています。

この染付技法は、海外で盛んに開催されていた万国博覧会で高い評価を得た「瀬戸染付」を惜しみなく注ぎ込み、便器であっても手を抜かない近代瀬戸を代表する窯屋の技と心意気を感じさせてくれるものであります。

白い器面に鮮やかな青色の豪華絢爛な文様は、厠（一トイレ）という特異な空間に彩りを添え、多くの人々を魅了したに違いありません。

本展では、古便器の歴史について製品を通して概観するとともに、華やかな染付便器の世界を紹介します。

【講演会・ギャラリートーク】

8月20日（土）13:30～15:00

講師：瀬戸蔵ミュージアム館長 武藤 忠司 氏

第一部 講演会

「染付便器の歴史と瀬戸染付について」
セラミックアートセンター研修室（聴講無料）
定員／一般60名程度 要電話予約

第二部 ギャラリートーク



朝顔型（瀬戸蔵ミュージアム 蔵）



向高（瀬戸蔵ミュージアム 蔵）



小判型（瀬戸蔵ミュージアム 蔵）

江別市セラミックアートセンター

〒069-0032 北海道江別市西野幌 114 番地 5

TEL 011-385-1004 FAX 011-385-1000

<http://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/ceramic/>

<https://www.facebook.com/ebetsucityceramic/>

交通案内

【公共機関で】ＪＲ野幌からジェイ・アール北海道バス「野幌総合運動公園行」もしくは「北広島・南の里行」乗車、「セラミックアートセンター前」下車。所要時間約 10 分。

【お車で】札幌・岩見沢から国道12号線利用の場合、約40分。駐車無料。

